

社会福祉法人 蓮花の会  
令和元年度 事業報告 (案)

基本理念

生まれ育ったこの町でこの町のみなさんと一緒に暮らしていきたい（生きたい）と願う当事者家族の思いに寄り添い、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを目指し地域福祉の向上に貢献します。

運営理念

ひとりひとりの個性と可能性を尊重し、住み慣れた地域の中で安心・安全で快適な暮らしができるよう、心かよいあう安定した福祉サービスの提供のために、法令を遵守して健全な法人運営に努めます。

<重点目標>

1 法人理念の浸透

毎朝のミーティング前に基本理念・運営理念及び7項目のスタッフの誓いの唱和を行い、法人理念の浸透に努めました。前日の自らの支援を振り返り、今日の支援にいかすよう福祉従事者としてのあるべき姿を共通目標にすることにより、組織的なサービスの質の向上に取り組み、ほとんどの職員が概ね暗唱できるようになりました。法人理念及び7項目のスタッフの誓いを基に、各サービス事業所においてスタッフ協働の事業所理念を作成しました。

2 福祉人材の育成

「人材の確保」・「定着」・「育成」の視点で、処遇改善とキャリアパス、人事評価を行い働き甲斐のある職場づくりに努めました。法人内の全体会議の他に積極的に外部研修等に派遣して職務能力の開発及びリーダー層の育成に取り組みました。また、外部講師を招き発達に障害を持つ人たちの特性理解と支援の方法について研修会を開催しました。

3 法令遵守

福祉サービスの各事業所は、専門職等の人員配置基準を守り、法令に定められた基準に基づいて請求事務をおこなうべきであったにもかかわらず、放課後等デイサービスにおいて個別支援計画が作成されていない期間があり誤った請求が実行されていたことが確認されたため、県に申告しました。また、その後の監査において人員配置欠如があったことがわかり同月過誤による多額の給付費を調整返還することとなりました。このことについて、改善を図り佐賀県へ状況等の報告を行いました。今後、同じことを繰り返すことがないように、人員配置を見直し、個別支援計画作成の手順を再確認して職員全体で作成状況を把握するようにしました。

#### 4 啓発・広報

開かれた法人運営を目指し、年間2回「蓮の実ニュース」を発行して各事業の活動等の報告を行いました。また、令和元年8月3日(土)には地域交流の一環として「蓮の実まつり」を開催し、地域の住民や日ごろお世話になっている方々をお招きして交流を図りました。

#### 5 組織機能の強化

改正社会福祉法に基づいた理事会・評議員会・監事監査会等を適正に開催し、組織統治体制を整備しました。また、税理士、社会保険労務士等の専門家によるチェック及び相談の体制の充実に努めました。放課後等デイサービスの監査以降、毎朝短時間のマネージャー会議を開催して、各サービス事業が抱えている問題や課題を共有する時間を設け、共通理解を図るように改善しました。

#### 6 法人運営

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| ① 理事・監事会の開催 計8回 | ② 評議員会の開催 計4回      |
| ③ 監事監査会の開催 計3回  | ④ 評議員選任・解任委員会 開催なし |
| ⑤ マネージャー会議の開催   | ⑥ サービス管理(提供)責任者会議  |

##### (2) 財政基盤

- |                  |              |
|------------------|--------------|
| ① 地域活動支援センター事業収入 | ② 居宅介護事業収入   |
| ③ 日中一時支援事業収入     | ④ 特定相談支援事業収入 |
| ⑤ 障害児相談支援事業収入    | ⑥ 生活介護事業収入   |
| ⑦ 共同生活援助事業収入     | ⑧ 短期入所事業収入   |
| ⑨ 障害児通所支援事業収入    | ⑩ 移動支援事業収入   |
| ⑪ 就労継続支援B型事業収入   | ⑫ 寄付金等収入     |

##### (3) 市・町受託金・補助金等

・地域活動支援センター事業	白石町	4,750千円
・日中一時支援事業	3市3町	7,689千円
・移動支援事業	3市3町	2,102千円

##### (4) その他の補助金・助成金等を積極的に申請して法人運営に活用しました。

・白石町手をつなぐ育成会	27千円
・65歳超雇用推進助成金	1,000千円
・生きがい活動支援補助金(町社会福祉協議会)	50千円
・NHK歳末たすけあい募金配分金	12千円
・白石町障害者就労福祉サービス利用促進事業補助金	250千円

## 7 利用環境の向上

- 1、バリアフリーの彩光豊かな施設で安心安全に過ごしていただくために日々の清掃、危険箇所や不具合箇所の点検整備に努めました。
- 2、就労継続支援 B 型事業所の工賃向上を目指し、平均工賃月額 20,000 円以上を達成して利用者の給料日にはますます笑顔が見られました。「来月も頑張ります。」と働く意欲にもつながっています。この実績により、基本報酬額もアップしました。
- 3、令和元年 8 月に定員 20 名の放課後等デイサービス事業場を整備しました。2 階建てにより年齢や障害の特性、課題に応じたグループ化を図り受け入れ態勢を整えました。利用のニーズに応えられるようになった一方で、定員の規模と支援の充実に課題も見えてきました。次年度に引き継ぎ課題を検討していきます。
- 4、職員の研修や個人学習をバックアップすることにより個人のスキルアップから法人全体のスキルアップに繋げ、利用者の処遇改善に努めました。  
令和元年度の研修は、法人内外を合わせて延べ 52 回開催し、出席職員数は延べ 479 名になりました。施設に外部講師を招いて行った研修会は同日に多くの職員が参加できる機会を提供でき有意義な研修になりました。



平成 31 年 4 月 20 日 発達障害を持つ人たちの特性理解と支援研修の様子

# 令和元年度 地域活動支援センター事業報告 (案)

## 1 事業運営の基本方針

利用者が生まれ育った地域で、楽しく豊かに暮らすことが出来るよう、日中活動において、それぞれの障害特性に応じた排泄・食事・送迎等の必要な支援を実施しました。あわせて生産活動の機会の提供を通して就労への意欲を喚起し、社会との交流を促進するとともに、ひとりひとりの個性を尊重した事業経営に努めました。

## 2 利用者の処遇

利用者ひとりひとりの障害の程度や特性に応じた軽作業の内容を検討し、働くことの意義と楽しさを知ってもらうことで、心身の活性化と日常生活動作の向上に繋げる支援に努めました。

## 3 生産活動

生活介護と協力して手作りの貼絵カレンダーを作成し販売を行いました。

## 4 利用者の実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	48	54	33	46	8	34	38	38	9	10	30	24

年間延べ利用者数 372人 月平均利用者数 31人 1日平均利用者数 1.5人

※15:30以降日中一時支援事業の定員を超えた利用者様を地活で支援した人数は年間22人でした。

## 5 健康管理

毎利用のはじめに体温と血圧の測定を行い、体調不良及び身体に変化がある場合は、施設内の看護師による指示、指導を仰ぎ必要に応じて医療機関へつなげました。

## 6 防災計画

令和元年7月、令和2年2月に火災を想定した避難訓練を実施しました。

## 7 日課

サービス提供時間(土・日・祭日を除く 9:30から15:30)において適宜休憩をはさみながら軽作業に取り組んで頂き、利用者の体調等を考慮して作業内容を検討し、無理がない程度の日中活動を提供しました。また、日中一時支援事業の定員を超えた利用者様を15時30分以降、地域活動支援センターで受け入れて支援しました。

## 8 職員研修

内部、外部の研修等に積極的に参加して、職員会議等で伝達・報告する事により、事業所全体の資質の向上とサービス向上に努めました。

## 9 資金計画

令和元年度計算関係書類の通り通常の運営経費は市町からの補助金収入、利用者負担金で賄いました。

# 令和元年度 居宅介護事業報告 (案)

## 1 基本業務の内容

利用者様がご自宅において、安心、安全に過ごすことができるように時間を厳守して訪問しました。保護者様の就労等で、ひとりで留守番をしている利用者に対しては1日3回自宅を訪問して朝の支度や排泄、入浴等の身体介護及び調理等の家事援助を実施しました。また、ひとりで病院等を受診できない利用者様に対しては、福祉有償運送車両を用いて通院の介助を行い、安全運転で目的地まで送るよう努めました。ご家族様と顔を合わせる機会が少ない利用者様には、ご家族様と事業所間の連絡帳を作成して利用者様の様子を報告するなどご家族様との連携に努めました。精神障害の支援も難しいですが対応しています。

## 2 利用者の処遇

利用者様ができることは、自発的に行っていただけるように、自信が持てるような言葉かけに留意し支援を行いました。また、これまで過ごしてこられた生活習慣を大切に、課題が見える場合には、支援会議等で検討し、より良い支援につなげることで利用者様に安心と信頼を得られるよう努めました。

## 3 健康管理

毎回、サービスをご利用の際に、ご本人もしくはご家族様に体調や生活面のご様子を伺い、変化等がある場合は、記録に残しました。また、緊急時等の対応のためにマニュアルを整備しました。研修会にも積極的に参加し、さらにサービスを利用される方の障害特性などを理解、把握するために専門書等で勉強して利用者様に安心して利用いただけるよう努めました。

## 4 移動支援

福祉有償運送により通院及び外出等の支援を行ないました。令和元年度は、延べ2387人(回)の利用があり、21279.05km走行しました。

## 5 サービス提供時間

午前7時30分から午後7時のご利用が大半でしたが、利用者様がいつでも連絡できるよう専用の携帯電話を窓口として24時間体制を整備しました。

## 6 職員研修

法人研修・重心ネットワーク研修など

## 7 資金報告

通常の運営費は、介護給付費、利用者負担金収入で賄いました。

# 令和元年度 特定相談支援 事業報告 (案)

## 1 運営基本方針

常に利用者の立場に立って、障害者自身やご家族が望む自立した日常生活又は社会生活ができるように、数多くの障害福祉サービス事業所との連携を図り、利用者が暮らしやすいサービス等利用計画の作成に努めました。

## 2 利用者の処遇

利用者又は御家族の意思及び人格を尊重し、利用者やご家族が望む暮らしの実現に向けたサービス等利用計画の作成に努めました。又、守秘義務を遵守して利用者とその御家族から安心と信頼を得られる事業運営に努めました。定期のモニタリングはもとより、ご本人又はご家族、事業所等からの相談等の連絡があった時には即時対応に努め、安心して地域で生活できるように支援しました。

又、利用者を取り巻くご家庭やサービス事業所との連携以外にも、受診同行を行いご本人の状態把握と共に、医療機関関係者とも連携を深めていけるように取り組みました。

## 3 サービス等利用計画作成件数及びモニタリング件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	4	2	8	6	3	3	5	3	2	4	7	6	53
モニタリング	9	8	9	9	8	14	12	4	18	8	7	10	116
合計	13	10	17	15	11	17	17	7	20	12	14	16	169

## 4 計画相談登録者数 (令和2年3月31日現在)

男性 29名 女性 21名 合計 50名

## 5 職員研修その他

各種の研修会等に参加し、相談支援専門員としての資質の向上と専門的知識の習得を図り、その他関係機関との連携や地域課題への取り組みも行いました。

研修内容	開催日
自立支援協議会	4/12・12/13
精神ネットワーク	5/17・
相談支援部会	5/13・6/3・12/2
就労支援部会・関係	7/16・
相談・支援研修	4/14・5/19・5/30・6/23・7/25・11/9・12/5,6

上記の研修以外に法人内での毎月の職員全体研修（事業所同士の情報の共有や研修その他）や法人主催の外部講師を招いた研修会にも参加して研鑽に努めました。

## 6 資金収支報告

通常の運営経費は別紙資金収支計算書のとおりです。

# 令和元年度 障害児相談支援 事業報告 (案)

## 1 運営基本方針

常に利用者の立場に立って、障害児自身や保護者が望む自立した日常生活又は社会生活ができるように、数多くの障害福祉サービス事業所との連携を図り、利用者が暮らしやすいサービス等利用計画の作成に努めました。

## 2 利用者の処遇

児童又は保護者の意思及び人格を尊重し、児童や保護者が望む暮らしの実現に努力し、児童の身の自立・社会性の向上に向けたサービス等利用計画の作成に努めました。又、守秘義務を遵守して児童・保護者から安心と信頼を得られる事業運営に努めました。計画作成の新規や更新時やその他必要に応じて、家庭以外にも保育園・幼稚園・小学校・支援学校等を訪問し参観させてもらい先生にも話を伺ってからサービス等利用計画の作成をしています。その後サービス担当者会議や個別支援会議を教育機関で開催させていただき家庭・教育機関・福祉・医療機関等の多職種が連携して、共通の支援ができるように取り組みました。

## 3 障害児支援利用計画作成件数及びモニタリング件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	5	7	3	7	8	7	5	9	6	4	6	27	94
モニタリング	18	23	23	8	14	26	7	10	10	13	16	12	180
合計	23	30	26	15	22	33	12	19	16	17	22	39	274

## 4 計画相談登録者数 (令和2年3月31日現在)

男児 67名 女児 18名 合計 85名

## 5 職員研修その他

各種の研修会等に参加し、相談支援専門員としての資質の向上と専門的知識の習得を図り、その他関係機関との連携や地域課題への取り組みも行いました。

参加した研修は特定相談支援の事業報告の通りですが、その他児童支援に関する研修として、子ども支援部会へ4月18日及び6月30日、医療ケアワーキンググループ会議へ7月3日、11月28日、医療ケア児等の為の地域連携の在り方研修へ4月14日、発達障害特性研修会へ5月19日、医療・教育・福祉連携研修会5月30日などに参加しました。

その他に法人内での毎月の職員全体研修(事業所同士の情報の共有や研修その他)や法人主催の外部講師を招いた研修会にも参加して研鑽に努めました。

## 6 資金収支報告

通常の運営経費は別紙資金収支計算書のとおりです。

# 令和元年度 生活介護事業報告 (案)

## 1 事業運営の基本方針

利用者が自立した日常生活または社会生活を営む事ができるよう、入浴、排泄、および食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、地域における生活の充実と社会的自立を支援するとともに、1人ひとりの個性を尊重した事業運営に努めました。入浴においては、個々の要望に沿えるよう支援し、安全かつ自立に繋がる支援を行いました。

## 2 生産活動

利用者による手作り貼絵カレンダーを地域のフリーマーケットに出店し販売しました。冬期に行っている物品販売事業にも出品し、利用者の生産意欲の向上を促すことができました。

## 3 利用者の処遇

利用者の基本的人権を尊重し常に利用者の立場に立った支援を心がけました。また心身の健康管理と維持、軽運動を取り入れ身体機能の維持向上にも努めました。

## 4 健康管理

毎利用時にバイタルチェック（検温・血圧測定・体調確認等）を施行し、体調不良及び身体に変化がある場合は看護師と協力しながら対応しました。

また、嘱託医による月1回の往診、健康相談を実施しました。

感染予防対策として日常の手洗いと室内の換気の励行、温度・湿度の調整をこまめに行いました。体温調節が難しい利用者には衣服等の調整を行い健康管理に努めました。

3月からは新型コロナウイルス感染予防対策として体温チェック表を各家庭にお渡ししてご協力をいただき、事業所でも朝と昼に体温を測定して観察を行い、特に手洗い、うがい、手指消毒、換気の励行、消毒液で窓、ドアノブ、床、机、椅子等掃除を行いました。

## 5 防災計画

令和1年7月23日（火）午前11時00分及び令和2年2月26日（水）午後15時00分に火災を想定した避難訓練を実施しました。

## 6 日課

月曜日から土曜日までサービスを提供し、朝のラジオ体操、水分補給や休憩をはさみながら軽作業と入浴を中心に日中を過ごして頂きました。

個別支援計画に基づき一人ひとりの個性や特性に配慮して、課題に沿ったサービスの提供を行いました。

## 7 職員研修

介護職員初任者研修をはじめ、サービス管理責任者研修等、各分野の研修に参加しました。また他事業所へ施設見学等に派遣し、スキルアップに努め、利用者の為に貢献できるよう努めました。

- ・月に一度の職員全体会議、伝達等研修



- ・ 新任職員研修
- ・ フレームワークを活用した自閉症及び ADHD の支援
- ・ 根拠ある記録の書き方研修
- ・ 中堅職員研修
- ・ 新任職員フォローアップ研修
- ・ 指導的職員研修
- ・ 発達障害への理解と対応研修
- ・ コーチング技法を活用した「人材育成指導力」向上研修
- ・ 権利擁護と虐待防止研修
- ・ 指導的職員スキルアップ研修
- ・ 会議を実り多いものに変える会議活性化研修

## 8 利用実績

	月/区分	2	3	4	5	6	計	市町村別利用者数		年齢別利用者数	
								市町村	人数	年齢	人数
平成 31年	4月	9	73	100	105	83	370				
令和 1年	5月	8	37	102	110	92	349	白石町	14	19～25	7
	6月	8	31	100	102	87	328	江北町	1	26～35	4
	7月	8	37	106	85	115	351	大町町	3	36～45	0
	8月	17	30	87	85	111	330	嬉野市	1	46～55	4
	9月	8	36	122	66	111	343			56～65	4
	10月	9	13	119	69	116	326			65歳 以上	0
	11月	11	13	98	52	131	305			計	19
	12月	12	24	99	57	135	327				
令和 2年	1月	11	32	93	61	136	333				
	2月	6	32	92	59	128	317				
	3月	10	33	108	62	136	349				
利用者延数		117	391	1226	913	1381	4028				

※ 利用者の56%は障害支援区分5または6を有し、日常的にマンツーマンの個別支援対応をしています。

## 9 資金計画

令和元年度計算関係書類の通り、運営費は介護給付費で賄いました。

# 令和元年度 共同生活援助事業報告 (案)

## 1 業務報告

利用者が安心して穏やかに暮らすことができるよう、家庭的な雰囲気作りに努めました。利用者の言葉に耳を傾け、コミュニケーションを図る事で、関係の構築に努めると共に、明るく楽しい共同生活を送る事が出来るよう配慮しました。

個別支援として、買い物の支援や居宅を利用しての外出支援により、自己選択による楽しみのある生活が送れるように配慮しました。

## 2 利用者の処遇

利用者の心身の状況や、ひとり一人の個性を尊重した個別支援計画を作成し、その計画に基づき日常生活上必要な身体的、精神的な支援をチームで実践しました。利用者の意向の把握に努め、出来るだけ希望に添いながら、自立支援に努めました。

## 3 健康管理

毎朝、バイタル測定を実施し、異常の早期発見に努めました。又朝、夕の献立を作成し、バランスの取れた消化の良い食事の提供に努めました。誤嚥防止や咀嚼力により個々に合わせた食事形態に配慮しました。また増加しがちな体重管理の為、野菜中心のメニューを作成し提供しました。毎朝バイタル測定を実施すると共に、インフルエンザの予防、3月は新型コロナウイルスの感染防止の為、手洗い、消毒、施設内の除菌作業を毎日行いました。

## 4 環境の整備

日頃から清掃、換気に努め清潔な環境で気持ち良く生活が出来るよう配慮しました。衣類は毎日、リネンは毎週洗濯し快適な暮らしに向け努めました。

## 5 防災計画

防災計画に沿って、年2回、法人内の他事業所と合同での夜間を想定した災害時避難訓練を実施しました。避難に関わる必要物品や備蓄も買い揃え、定期的に確認をしています。

## 6 人材育成と専門性の向上

職員全体会議やスタッフ会議への参加を促し、個人のスキルアップと職員間で統一したケアができるよう報告、連絡、相談に努めました。研修参加については別紙（短期入所事業紙面）で報告。

## 7 入退居報告

入退居者 0                  6床満床

# 令和元年度 短期入所事業報告 (案)

## 1 業務報告

利用者が安心して宿泊することができるよう、家庭的な雰囲気作りに努め、保護者や関係機関との連携を密にして自立に向けた支援に努めました。

## 2 利用者の処遇

利用者一人ひとりの心身の状況に応じ、日常生活上の必要な支援を考慮して利用者の健康の保持とADLの向上に努めました。利用者ごとに支援目標を定め、個々のニーズに添った支援が出来るよう職員はケアの統一に努めました。

## 3 健康管理

バランスと消化の良い食事の提供に努め、来所時と起床時の健康チェックを行い、体調の変化に留意しました。3月は新型コロナウイルスの感染防止のため、手洗い、消毒に努め、施設内の除菌作業を毎日実施しました。

## 4 環境の整備

施設内の美化と利用者の身の回りの整理整頓に努め、衣類等は入浴後に洗濯しました。快適な環境で過ごせるよう換気、通気に気を配り空調の管理を行いました。

## 5 災害避難訓練の実施

防災計画にそって年2回隣接する施設内他事業所と合同で、災害を想定した避難誘導訓練を実施しました。年2回夜間の避難訓練を実施しました。

## 6 人材育成と専門性の向上

スタッフ会議や職員全体会議及び外部研修等に積極的に参加して、個人のスキルアップと共に伝達研修や報告会を通して事業所全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

### 研修参加実績

平成31年	4月	法人内全体研修「ASD児への支援」
令和元年	6月	発達障がい児・者への理解と対応研修
	9月	法人内全体研修 発達障がい児・者の理解と支援
	11月	発達障がい児・者への理解と対応（応用編・事例検討）
令和2年	1月	「ダウン症候群の高齢化に伴う医療的ケアと日常活動能力 QOL 改善の取り組み」
	2月	非常災害時の職員対応と救急法研修

### 令和元年度 短期入所利用実績

月	利用者数	利用回数	利用延べ日数	
4	17	48	104	
5	17	47	105	
6	17	48	103	
7	17	47	105	
8	18	41	93	
9	17	47	101	
10	17	49	98	
11	18	51	99	
12	18	50	101	
1	15	49	99	
2	15	48	97	
3	19	55	108	
合計	205	580	1213	
平均	17.1	48.3	101	

# 令和元年度 放課後等デイサービスはなという事業報告 (案)

## 1、事業運営の基本方針

障害をもつ児童に対し、放課後及び土曜、祝日や長期休業時などに、生活能力の向上に必要な訓練、社会交流、コミュニケーション能力向上への支援を行いました。

土曜、祝日、長期休業時には放課後等デイサービス利用希望者が10名を超えており、日中一時支援事業と連携を図りながら受け入れを行ってききましたが、令和元年8月に利用定員を10名から20名に増員しました。このことで、より多くの利用希望児童の受け入れが可能になりました。また、児童数が増えたことで支援の質が低下しないように、個別支援計画作成手順を遵守し、職員全体で支援の目標や方法を共有できるように努めました。

## 2、利用者の処遇

保育士、児童指導員、作業療法士等の専門職を含めた職員を配置し支援にあたりました。令和元年8月には定員20名の放課後等デイサービス事業所を新築しました。新しい事業所は2階建てになっており、それぞれの階で児童の特性に応じた環境調整を行い支援にあたりました。

日常生活動作訓練や、学習課題、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上（ルール理解）等を行いながら、休日などの一日利用時には各日で行事を計画し余暇時間の充実を図りました。

## 3、研修計画

施設内研修としては、講師をお招きし2回/年実施しました。施設外研修としては行政が主催する研修会、各団体などが開催している研修会に積極的に参加しました。

施設内研修会	施設外研修会
<ul style="list-style-type: none"><li>・障害特性の理解と評価（平成31年4月20日） 講師：諸石 愛子 氏</li><li>・発達障害児（者）の理解と支援（令和元年9月21日） 講師：桑原 広行 氏</li><li>・職員全体会議（1回/月）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・第53回 日本作業療法学会</li><li>・杵藤地区自立支援協議会（子ども支援部会）</li><li>・他の放課後等デイサービスとのケース検討会</li><li>・佐賀県作業療法士会学術研修会</li><li>・佐賀県療育支援センター研修</li></ul>

## 4、健康管理

保護者様や学校担任への体調等の聴取は随時実施しました。利用開始時には体温測定などのバイタルチェックを行いました。

衛生管理面にも配慮し、食事やおやつ前の手洗い実施や、インフルエンザ等の感染性の病気が流行った際にはアルコール消毒等を実施しました。新型コロナウイルス感染

防止策としては、各家庭にて朝昼夜の検温を徹底していただき、利用時に検温表のチェックを行いました。また、玩具や机などの備品は、消毒を行い清潔を保つように努めました。

## 5、防災計画

令和元年7月23日午前11時00分に本体施設内就労継続支援B型事業所より火災が発生したという想定にて避難誘導訓練を実施しました。

また、放課後等デイサービス事業所の新築に伴い事業所単位での火災避難訓練を令和2年2月26日16時30分から実施しました。

## 6、日課

学校からの送迎後、バイタルチェック、排泄、手洗いをを行い、個別支援計画に沿った課題や訓練を実施しました。新築された放課後等デイサービス事業所では個室も整備していたため、それぞれの部屋で談話をしたり、知育ゲームを楽しまれるなど、各々が趣味や興味に応じた余暇を過ごせるようになりました。

## 7、実績

### ① 利用契約児童数（前年度比：8名増）

小学部	中学部	高等部	契約児童総数
19名	13名	8名	40名

### ② 利用実績児童数（平成31年4月～令和2年3月）令和元年8月より定員20名

年月	延べ利用者数	1日平均利用数
平成31年4月	267名	10.2名
令和元年5月	259名	9.5名
令和元年6月	244名	9.7名
令和元年7月	265名	9.8名
令和元年8月	318名	13.2名
令和元年9月	292名	11.6名
令和元年10月	313名	11.5名
令和元年11月	307名	11.8名
令和元年12月	295名	12.2名
令和2年1月	294名	12.7名
令和2年2月	309名	12.3名
令和2年3月	380名	14.6名

# 令和元年度 就労継続支援 B 型事業報告 (案)

## 1 事業運営の基本方針

地域における生活の充実と社会的自立を支援するとともに、ひとりひとりの個性を尊重した事業運営に努めました。

## 2 利用者の処遇

利用者の基本的人権を尊重し、常に利用者の立場に立って心身の健康保持と生産活動の能力向上に努めました。また、欠席の続く利用者に対してはご自宅を訪問して本人およびご家族にアセスメントを行い、精神的な安定が保てるよう相談援助を行いました。

今年度は目標工賃を月額平均 18,755 円と定めて取り組んだ結果、平均月額工賃 20,772 円を支払う事ができ、前年度より 2,017 円向上しました。又、今年度は慰労会として、蕁狩りやコース料理のお食事会にも行きました。利用者が「仕事を頑張るから、またみんなと一緒に何処かに行きたい」と述べられるなど仕事の意欲にも繋がりました。

## 3 生産活動

- ・手作り弁当事業（白石産の原材料にこだわった手作りの美味しい弁当作りに取り組み、年間 28,526 食製造販売しました。前年度より 3,107 食の増加となりました。）
- ・受託事業 配食サービス（年間 10,977 食製造配達しました。）
- ・自主製品事業（手作り小物を作成販売しました。）
- ・その他作業（空き缶・空ビン回収・選別等の仕事にも積極的に取り組みました。）
- ・自主栽培事業（きくらげ栽培・しいたけ栽培も 500 床から 1,000 床に規模を拡大しました。）

## 4 健康管理

毎利用のはじめにバイタルチェック施行し（検温・血圧測定・体調確認）、体調不良及び身体に変化がある場合は施設内看護師による指示・指導を仰ぎ、歯磨き指導・インフルエンザ予防接種等を実施しました。

## 5 防災計画

令和元年 7 月 23 日（火）午前 11 時に本体就労継続支援 B 型事業所より、また令和 2 年 2 月 26 日（水）本体厨房より火災が発生したという想定で消防訓練を実施しました。

## 6 人材育成と専門性の向上

内部、外部の研修等に積極的に参加し、スタッフ会議や職員全体会議で伝達、報告することにより事業所全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

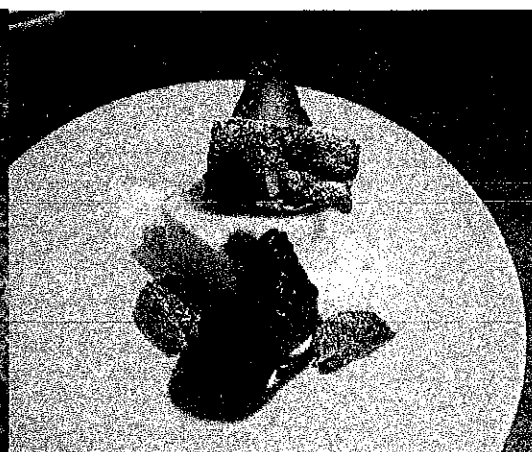
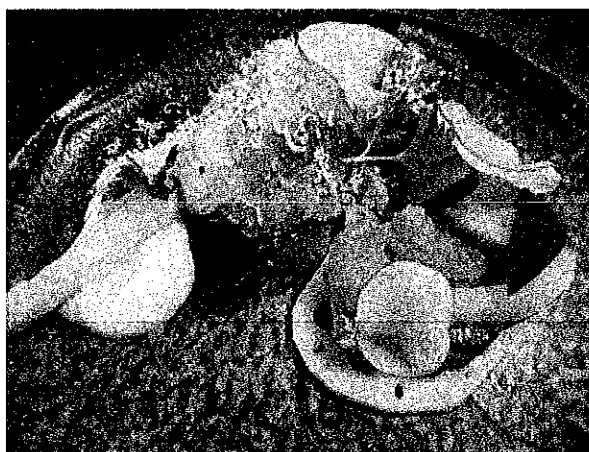
他、以下の研修も参加しました。

- ・2019年度事業所説明会
- ・フレームワークを活用した自閉症及びADHDの支援
- ・場面に応じた伝える力を身につける！プレゼンテーション研修
- ・コーチング技法を活用した「人材育成指導力」向上研修

## 7 資金計画

就労支援事業と福祉事業とに会計を区分し、福祉事業に関わる通常の運営費は介護給付費、利用者負担金、及び法人の他のサービスからの繰入金で賄いました。

また、就労支援に係る事業費は、得た収入から必要な経費を差し引きその全額を利用者の工賃に充てました。



はじめてのコース料理を目と舌で味わってきました。感激！！

「仕事」と「余暇」のつながりが理解できた利用者の声も支援者の励みになりました。



# 令和元年度 日中一時支援事業報告 (案)

## 1 運営基本方針

利用者ひとりひとりの個性と家庭の教育方針を尊重し、生活習慣の確立及び機能の向上に心がけ、明るく楽しい施設運営に努めました。

## 2 利用者の処遇

温かい愛情をもって、すべての利用者を平等に処遇し、趣味の活動や娯楽を通して将来の自立に向けた生活習慣の指導・訓練とADLの向上に努めました。また週の初めの登校や、ショートステイ明けの朝には、うれしの特別支援学校までの送迎希望に対応しました。

### 利用実績 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登校前支援	15	25	16	11	0	27	14	18	23	25	26	6	206
日中支援	78	95	63	85	26	42	33	38	24	41	43	44	612
レスパイト	12	8	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	24
生活介護後	86	91	91	91	98	87	81	78	75	74	71	77	1000
計	191	219	171	190	124	156	128	134	122	140	140	127	1842

## 3 環境整備

施設内清掃と利用者周辺の整理整頓に心がけました。食事やおやつ前には手洗いを促し、感染症等の流行時期には手すり椅子などのアルコール消毒を励行するなど健康保持に努めました。

## 4 防災計画

令和元年7月、令和2年2月に、火災を想定した、利用者を含めた避難誘導訓練を行いました。計画的に実行し、反省点などを基に今後の対策を職員全体で共有できました。

## 5 日課

事業の実施時間は午前7時から午後9時までとし利用者の保護者の都合により、その範囲内で伸縮し対応しました。利用時は趣味の活動などを提供し余暇時間の充実を図りました。

## 6 職員研修

内部、外部の研修に積極的に参加し、職員全体会議で伝達、報告することにより事業所全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

## 7 資金計画

令和元年度計算関係書類の通り、通常の運営経費は市町からの委託費収入、利用者負担金で賄いました。

## 令和元年度 蓮の実ファミリー会 事業報告 (案)

### 1. 活動報告

開催年月日	参加人数	内 容
第1回 (4/17)	8人	自己紹介、会の名称決め、座談会
第2回 (5/15)	3人	自己紹介、開催月・曜日決め、座談会
第3回 (7/17)	3人	自己紹介、座談会 (就学に向けて) 放課後等デイサービス職員による講話
第4回 (9月)	1人	
第5回 (11月)	0人	参加者0人のため中止
第6回 (1/23)	6人	自己紹介 座談会 (登下校はどうしているか)
第7回 (3月)	0人	新型コロナウイルスナ感染拡大防止の 為中止

※ 同じ境遇の親同士で悩みを共有する事で、子育てに対する不安の解消となり、  
情報交換の場、親同士の交流の場となりました。

※ 会の活動は、法人からの運営資金繰入で賄いました。